

明治五年十一月十九日

上諭ニ曰ク前ニ大藏卿伊達宗城カ清國ニ適テ
 議立セシ兩國修好條規通商章程等ニ定メタル
 條々ヲ閱シテ既ニ永遠修行上愈ヨ友誼ヲ敦ク
 スヘキ旨允准シタレハ外務大臣副島種臣ニ申
 付書判ヲ加ヘ取換セシ上右條約内必ス行フヘ
 キノ諸事件ヲ全國府縣ノ大臣等へ布告シテ總
 テ一般ニ相照シ辦理セシムルモノ也
 神武天皇即位紀元二千五百三十三年

明治六年三月九日

大正

大正

太政官印

大日本國大皇帝敬テ
大清國大皇帝ニ白ス曩ニ兩國俱ニ泰西ノ諸國
ト交通往来ス而シテ獨リ兩國未タ親善ヲ修メ
ス故ニ去歲親臣大藏卿伊達宗城ヲ簡派シテ貴
國ト條約ヲ議定シ已ニ批准ヲ予フ允トニ宜ク
使ヲ派シテ互換スヘシ適聞大皇帝既ニ婚ヲ成
シ且政ヲ親ラセシトス朕深ク之ヲ歡喜ス乃
チ特ニ外務大臣副島種臣ヲ貴國ニ遣シ和約ヲ
交換シ併セテ慶賀ヲ伸シム朕固ヨリ種臣ノ喉
舌ト為スニ堪エタルヲ知テ專テ各國ノ事務ヲ

大正

大日本國大皇帝敬テ
大清國大皇帝ニ白ス曩ニ兩國俱ニ泰西ノ諸國
ト交通往来ス而シテ獨リ兩國未タ親善ヲ修メ
ス故ニ去歲親臣大藏卿伊達宗城ヲ簡派シテ貴
國ト條約ヲ議定シ已ニ批准ヲ予フ允トニ宜ク
使ヲ派シテ互換スヘシ適聞大皇帝既ニ婚ヲ成
シ且政ヲ親ラセシトス朕深ク之ヲ歡喜ス乃
チ特ニ外務大臣副島種臣ヲ貴國ニ遣シ和約ヲ
交換シ併セテ慶賀ヲ伸シム朕固ヨリ種臣ノ喉
舌ト為スニ堪エタルヲ知テ專テ各國ノ事務ヲ

大正

總理セシメタレハ朕ニ代テ擔當シ好ニ歸セサ
 ルハナシ冀クハ
 大皇帝交誼ヲ思ヒ鄰好ヲ篤クシ茲ノ使臣ヲ待
 スルニ優ニ仁厚ヲ加ヘ此ヨリ兩國慶ヲ蒙リ永
 久渝ラサラシトヲ特ニ茲ニ敬テ白シ併テ
 大皇帝ノ多福眉壽ヲ祈ル
 明治五年壬申十一月十九日
 大日本國大皇帝陛下
 大日本國睦仁
 大日本國睦仁
 大日本國睦仁



別勅
 外務大臣副島種臣
 辛未冬我琉球藩民臺灣嶋ニ漂到シ其嶋ノ東部
 ニアル生蕃人ノ夕メ五十四人横殺ニ逢シ事件
 汝種臣ニ命シテ清國政府ニ派遣シ其處置ヲ談
 判セシム因テ朕カ委任スル要旨ヲ宣示ス
 一清國政府ニ於テ臺灣全嶋ヲ其所属地ト為シ
 右談判ヲ引受ケ其處置ヲ施ストヲ委任スル
 ニ於テハ横殺ニ逢シ者ノ為メ十分ナル伸冤
 ノ處置ヲ責ムハ

但右處置ハ罪人ヲ相當ニ罰シ横死ニ逢シ
 遺族ノモノニ若干ノ扶助金ヲ與ヘ且向後
 取締ヲ右ノ如キ暴逆ノ所業ナキトテ堅ク
 保セシムル事
 一清國政府ニ於テ若政權ノ及ハサルヲ以テ之
 ヲ其所屬地トセスレテ右談判ヲ引受サル時
 ハ之ヲ朕カ處置ニ任スヘシ
 一清國政府ニ於テ若シ臺灣全嶋ヲ屬地ト為シ
 事ヲ左右ニ托シ其談判ヲ引受サル時ハ清國
 政府政權ヲ失セル次第ヲ明辨且ツ生蕃人無

太政官

道暴逆ノ罪ヲ論責シ而シテ服セサレハ此上
 ノ處置朕カ意ニ任スヘシ
 一右談判振三條ノ外ニ出ル答アラハ公法ヲ遵
 守シ公權ヲ失ハサルヨウ審思注意シ臨機ノ
 談判ヲナスヘシ
 右勅旨ノ件々宜シク欽奉シテ愆ルナカサルヘ
 シ

明治六年三月九日

奉勅 太政大臣從一位三條實美

花押

太政官

Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a draft or a copy of a document, written in a cursive style.

大正

外務大臣副島種臣

爾種臣外務ヲ総理スルノ全權ヲ以テ清國ニ適
キ條約ヲ互換セヨ前ニ使臣柳原前光ヲ遣ハシ
議准セシ事宜ハ一々照辦シテ可ナリ今清帝婚
儀已ニ諧セ且ツ政ヲ親ラセントスト聞ク朕當
サニ書ヲ送り賀ヲ伸フヘシ爾種臣其レ之ヲ致
セ欽哉

明治五年十一月十九日



大正



明治五年十一月十日
外務大臣副島種臣
朕聞夕臺灣嶋ノ生蕃數次我人民ヲ屠殺スト若
レ棄テ問ハスンハ後患何ソ極ラント今爾種臣
ハ委スルニ全權ヲ以テス爾種臣其往テ之レヲ
伸理シ以テ朕カ民ヲ保ンスルノ意ヲ副ヘヨ欽
メ哉



外務大臣副島種臣
朕聞夕臺灣嶋ノ生蕃數次我人民ヲ屠殺スト若
レ棄テ問ハスンハ後患何ソ極ラント今爾種臣
ハ委スルニ全權ヲ以テス爾種臣其往テ之レヲ
伸理シ以テ朕カ民ヲ保ンスルノ意ヲ副ヘヨ欽
メ哉
神武天皇即位紀元二千五百三十三年
明治六年三月九日



太政官

明治六年三月九日

清國假條約書中在案ノ條件客歲外務大丞柳原前光ヲ以テ談判ニ及ビ置候趣モ有之候間條約附録高定候ハ、隨行官員ノ内相撰ニ右全權委任シ不苦候事

外務大臣副島種臣

明治六年三月九日 太政官

太政官

清國假條約書中在案ノ條件客歲外務大丞柳原前光ヲ以テ談判ニ及ビ置候趣モ有之候間條約附録高定候ハ、隨行官員ノ内相撰ニ右全權委任シ不苦候事

封心不若知事

前清高宗純皇帝御製詩書卷之三十五

前清高宗純皇帝御製詩書卷之三十五

前清高宗純皇帝御製詩書卷之三十五

外務大臣副島種臣

外務大臣副島種臣

一清國ノ儀ハ我國ト往來スル一一朝ニ非ス曾

テ隣好ノ誼アリ今又訂交ノ約書ヲ交換セン

トス此際生蕃暴逆ノ事件ヲ談判スル全ク我

政府國民ニ對スル義務不得已ニ出ツ故ニ交

際ヲ重シ和平ヲ旨トシ兩國間罅隙ヲ生スル

一ナキヲ要トス

一北京ニ於テ我欽派ノ公使在留ノタメ便宜ノ

地ニ於テ館邸ヲ置クヲ談シ且其館邸ヲ假

定スルヲ得ハシ

外務大臣副島種臣

大正

一便宜ヲ以テ随行官負ノ内ヨリ撰テ北京在留
辦理公使心得ヲ任シ假ニ諛地ニ在留ヲ命ス
ル權ヲ附ス
一清國視察ノモノ實地ノ考按ニヨリ進退指揮
ス可シ

右ノ通相達候事

明治六年三月九日奉村太
全官

一貴國ニ於テ在留
代

横濱在留米國人ヒーストヨリ

聖上ノ尊像彫刻致度旨別紙乙丙跡ノ通同國公
使へ申立候旨ヲ以テ同公使ヨリ甲跡ノ通書翰
差出候就テハ
伺候也

明治六年二月廿四日 外務卿副島種臣

正院御中

伺之趣難被及 御沙汰候事

明治六年三月九日

十二

太政官